



市内事業所の
個性豊かな社長さんや
店長さんなどの意外な交友関係をご紹介します。
いつかあなたにも繋がるかも？

いいともバトン：No.12 登場の瀧澤茂秋さん ➡ 伊庭義晴さん



左／伊庭さん(41) 右／藤田さん(43)

いいとも No.13

「いば生花店」(寿町) 伊庭義晴さんの“とものわ”は、「スナック月」(寿町)オーナー 藤田知己さん。お二人の出会いはさかのぼること20年前…藤田さんが花を飾ろうとセンスの良い花屋さんを探していた時に見つけたのが伊庭さんのお店でした。今でもイベント時のアレンジ花は「いば生花店」と決めているほど、伊庭さんのセンスとテクニックに惚れ込んでいます。

気が合う二人は藤田さんの店でお酒を飲みながら、お互いの店をPRできるコラボ企画はないかと作戦を考えているそうです。

花とお酒…どんなお洒落な企画が誕生するか楽しみですね。



コラム
「いいとも」
よもぎま

(株)ツルマキ工業
社長 鶴巻 恵一郎

それは、私がまだ小学生の頃の話です。その頃の私は川で魚を獲るか、加茂山を走り回るか。今話題の加茂山古道はもちろん、全ての道を覚え駆けずり回ったものです。

今からお話する事は、私がずっと忘れていた、およそ50年前の奇妙な生き物との出会いの話。

加茂山には今も変わらず池があり、憩いの場として

多くの人が訪れていると思います。私がお話するのはその池ではない、加茂山にある別の池(以後沼)で起きた出来事です。

その沼は、木々の中をかき分けて行くと、草木に囲まれて隠れるようになりました。そこは私の絶好の釣り場所でもありました。

あれは、秋も深まり水も冷たくなり始めた頃。日曜日の午前中の早い時間、その日は空には少し雲がかかり、今にも小雨が降りそうな気配がしていました。



私がいっものように竿を出し釣りを始めると、突然斜め前に「がぶ」という音と同時に赤ちゃんほどの手が水面に現れたのです。その手には水かきが付いていたことをハッキリと覚えていました。そして次の瞬間、赤ちゃん位の大きさをしたカエルの頭が水面に出てきたのです。そいつはその後私をあざ笑うように片足を大きく突き出し、大きな音とともに水の中に消えていきました。

私はビククリしてただ立ちすくんでいるだけで、長くも有り一瞬の出来事のように感じました。

うにも感じました。その日以来、私はその場所には一度も行っていない。今でもその大ガマは、いるのでしょうか。もしいたら、きっと河童になってくるかもしれないね。

皆さんも加茂山に行ったら探してみたいかがでしょうか。

私が子供の頃に本当に体験した、大きなカエルとの出会いです。

(株)ツルマキ工業

【住 所】加茂市幸町1-16-3
【TEL】0256(52)0836
【FAX】0256(52)1260
【営業】8:30～17:30
【HP】tsurumaki-k.com